

平成 27 年度

病害虫発生予報第 3 号

平成 27 年 6 月 25 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	8
4. 予察項目の見方	15
5. 今月のトピックス(イネ・紋枯病について)	16
6. 気象のデータ	17
7. おしらせ	19

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、葉いもち、白葉枯病、斑点米カメムシ類、イネクロカメムシ、ツマグロヨコバイの発生量は**平年並**と予想されます。穂いもちの発生時期は**やや早**、発生量は**平年並**と予想されます。セジロウンカの発生時期および発生量は**平年並**と予想されます。紋枯病の発生時期は**やや早**、発生量は**やや少**と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病、黒点病、かいよう病(温州)、ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量は**平年並**と予想されます。かいよう病(中晩柑)の発生量は**やや少**と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量は**やや多**と予想されます。発病が確認された圃場ではすみやかに防除を実施してください。ハダニ類の発生量は**平年並**と予想されます。

ブドウでは、べと病の発生量は**平年並**と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。特にこの時期は、ナシ(無袋栽培)とカキが加害されるおそれがあるので、圃場をよく見回

って飛来の状況を確認してください。

3) 茶

チャでは、炭疽病、カンザワハダニ、チャノキイロアザミウマ、クワシロカイガラムシ、チャノコカクモンハマキの発生量は**やや多**と予想されます。炭疽病は降雨が続く場合は防除しましょう。カンザワハダニは多発圃場では防除しましょう。チャノキイロアザミウマは 7 月第 2 半旬頃に防除しましょう。クワシロカイガラムシの幼虫孵化時期は 1 週間ほど早く 7 月 14 日～7 月 17 日頃と予想されます。この期間を挟んで 2 週間程度断続的に散水するか、7 月 16～20 日頃に薬剤防除しましょう。チャノコカクモンハマキは若齢幼虫を対象に 7 月第 1～3 半旬頃に防除しましょう。チャノミドリヒメヨコバイの発生量は**平年並**と予想されます。チャノホソガの発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

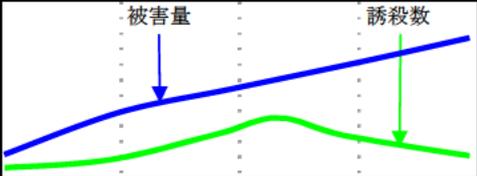
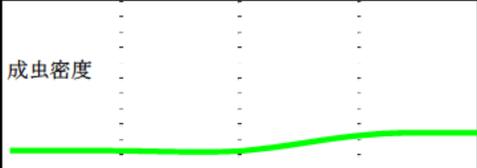
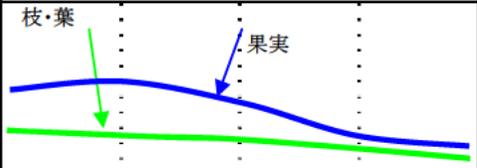
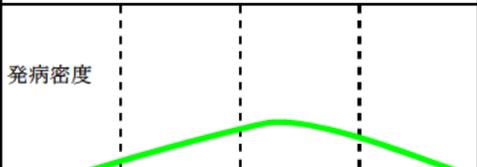
イチゴでは、炭疽病、ハダニ類の発生量は**平年並**と予想されます。うどんこ病の発生量は**やや少**と予想されます。

ネギでは、ネギゴガの発生量は**平年並**と予想されます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						6月		7月		
						下旬	下旬	中旬	下旬	
イネ	葉いもち	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 圃場を見回り、早期発見、早期防除に努めてください。 補植用置き苗は発生源となるので、速やかに取り除いてください。 いもち病発生予測支援システム(プラスタム)によると、6月下旬以降、本田で発病が確認され始めると予想されます。 雨天が続く可能性があるため、天気予報を参考にしながら、雨の合間を見計らって防除してください。
	穂いもち	やや早	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 上位葉の葉いもち病斑が伝染源となります。 圃場および周辺圃場での葉いもちの発生状況に注意してください。 薬剤散布は出穂始めから穂揃い期に予防的に行ってください。
	紋枯病	やや早	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 幼穂形成期頃(穂肥時期)から発生が目立つようになります。 水面に近い茎から茎へ感染します。薬剤散布によって病斑の上位葉への進展を阻止してください。
	白葉枯病	—	平年並	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 深水、冠水、台風によって感染や発病が助長されます。 常発地では台風直後に薬剤散布をしましょう。予防的な薬剤散布は効果が高いです。 「みえのゆめ」は耐病性の弱い品種なので注意してください。
	斑点米カメムシ類	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 畦畔などのイネ科雑草で増殖します。草刈りをこまめに行い、イネ科雑草の穂がつかないように管理してください。 水田内で雑草が多発すると、水田への侵入を助長するため、早めに除去しましょう。 草刈りは出穂 10 日前までに行いましょう。出穂直前および出穂後の草刈りは、水田への侵入を助長するおそれがあります。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						6月	7月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネクロカメムシ	—	平年並	小	普通		1) 常発地で薬剤散布する場合は、越冬成虫の発生量がピークとなる6月下旬に実施してください。 2) 日中は株元に潜んでいるので、夕方や曇天の日に薬剤散布を行うと効果的です。			
	ツマグロヨコバイ	—	平年並	中	低		1) 当面、防除が必要な密度には達しないと思われます。			
	セジロウンカ	平年並	平年並	小	低		1) 例年、被害の発生はごく局所的であるため、多飛来が認められた場合は、病害虫防除技術情報で臨時発表します。			
カンキツ	そうか病	—	平年並	小	普通		1) 常発圃場や昨年多発した圃場、幼木園、高接ぎ更新園の温州みかんでは、発生に注意してください。 2) 果実への感染は梅雨末期頃までといわれています。			
	黒点病	—	平年並	小	普通		1) 枯枝が伝染源です。梅雨時期の枯枝発生に注意し、樹冠内や圃場内の枯枝を除去してください。 2) 薬剤散布は前回の散布後に積算降水量が200～300mmに達した時を目安に実施してください。			

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						6月		7月		
						下旬	下旬	中旬	下旬	
カンキツ	かいよう病	—	温州 平年並	温州 小	温州 低	発病密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 降雨があると急速に感染が広がるので、発生圃場では雨の合間に防除してください。 2) 発病枝葉、果実は、見つけ次第剪除し処分してください。 3) 幼木や高接樹ではミカンハモグリガの被害部に発病しやすいので、ミカンハモグリガの防除を実施してください。 4) 中晩柑類では、梅雨期頃から10月中下旬頃まで果実への感染が起こります。
	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通	ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 発生密度が高くなると防除が困難になります。1葉当りの雌成虫発生数が0.5～1.0頭程度を目安に防除してください。 2) 薬剤は葉裏にもかかるように散布してください。 3) 同一系統薬剤の連用は避けてください。
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	中	普通	成虫密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 寄生果率10%を目安に防除してください。 2) 7月になり果実肥大が進むと果頂部で加害します。 3) 圃場周辺のイヌマキ・サンゴジュ等が発生源となります。
ナシ	黒星病	—	やや多	中	普通	発病密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 発病果及び発病葉は除去して、圃場外に持ち出し処分してください。 2) 発病が確認される圃場では、すみやかに防除を計画してください。 3) 薬剤散布を実施するときは薬剤をていねいに散布し、同一系統薬剤の連用を避けてください。
	ハダニ類	—	平年並	中	普通	ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 1葉当り寄生数が1～2頭で防除を実施してください。 2) 7～8月に密度が高くなります。徒長枝での発生にも注意してください。 3) 同一系統薬剤の連用は避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項						
						6月	7月									
						下旬	上旬	中旬	下旬							
ブドウ	べと病	—	平年並	小	普通					1) 降雨が連続すると病徴が急速に進展するので、葉裏に病斑を認めたら直ちに薬剤を散布してください。 2) 降雨の合間に防除を計画してください。 3) 被害葉及び被害落葉は感染源となるので圃場外に持ち出して処分してください。 4) 同一系統薬剤の連用を避けてください。						
											1) 一時的に圃場への飛来が減る場合がありますが、7月後半以降で再び飛来数が増加する可能性がありますので注意が必要です。 2) ナシ(無袋栽培)、カキでまとまった飛来を確認したら、防除を実施してください。 3) 中山間地や以前多発したことがある地域では、圃場への飛来に注意してください。					
チャ	カンザワハダニ	—	やや多	中	普通					1) 毛茸のある萌芽初期～1葉期までに防除しましょう。 2) 発病適温は25℃程度です。降雨が続く場合は防除しましょう。						
						チャノホソガ	—	やや少	小		普通					1) 防除適期は孵化直後の潜葉期(絵描き状態)です。 2) 二番茶期にジアミド系薬剤を使用した場合は、7月以降は他の系統の薬剤を使用しましょう。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						6月	7月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	小	普通					1) 病害虫防除技術情報第8号(6月2日発表) 2) 有効積算温度による予測式(6月22日予測)では、第4世代の発生日は7月4～6日(平年7月10～11日)、第5世代の発生日は7月21～23日(平年7月27～28日)と早いことが予想されます。 3) 萌芽期～開葉初期に防除しましょう。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	中	普通					1) 病害虫防除技術情報第8号(6月2日発表) 2) 有効積算温度による予測式(6月22日予測)では、第3世代の発生日は7月7～8日(平年7月13～14日)、第4世代の発生日は7月25～27日(平年8月1日)と早いことが予想されます。 3) 萌芽前～開葉初期に防除しましょう。
	クワシロカイガラムシ	早	やや多	中	普通					1) 病害虫防除技術情報第6号(5月12日発表) 2) 有効積算温度による予測式(6月22日予測)では第2世代幼虫孵化最盛日は四日市市では7月15日頃(平年7月21日頃)、亀山市では7月14日頃(平年7月21日頃)、松阪市では7月17日頃(平年7月21日頃)と早いことが予想されます。 3) 孵化最盛日を挟んだ2週間程度の断続的な散水により幼虫の固着を防ぐことができます。 4) 天敵に影響の少ない薬剤を選択しましょう。
	チャノコカクモンハマキ	—	やや多	小	普通					1) 病害虫防除技術情報第5号(5月7日発表) 2) 第1世代成虫のフェロモントラップ誘殺ピークは6月第5半旬頃と考えられ第2世代若齢幼虫の防除適期は7月第1半旬～第3半旬頃と考えられます。 3) 交信かく乱剤をまとまった面積に実施することにより、次世代以降の密度を下げるすることができます。 4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため同一系統の薬剤の連用は避けましょう。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量		要防除 圃場率 平年比	発生活消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		6月	7月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	うどんこ病	—	やや少	中	普通	発病密度 				<ol style="list-style-type: none"> 1) 育苗期の防除を徹底してください。 2) 薬剤防除は予防散布に努めます。葉裏から発生しやすいので、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布してください。 3) 発病を認めたときは、集中的に散布して感染拡大を防いでください。
	炭疽病	—	平年並	中	普通	発病密度 				<ol style="list-style-type: none"> 1) 病原菌は高温多湿条件を好み、梅雨時期以降に発生が多くなるため、十分な注意が必要です。 2) 病原菌(孢子)を含む水の跳ね返りで感染が拡大します。頭上灌水は避け、株を濡らさないようにしてください。 3) 発病株は感染源となるため、周辺株を含めて直ちに除去し、処分してください。 4) 薬剤防除は、薬液が株元まで十分かかるよう丁寧に散布してください。
	ハダニ類	—	平年並	小	普通	雌ダニ密度 				<ol style="list-style-type: none"> 1) 作物残渣から歩行によって移動します。葉かき後の残渣は圃場外に持ち出し、速やかに処分してください。 2) 多発すると防除が困難になります。早期発見に努め、発生初期に防除を行ってください。 3) 散布は葉裏を中心に丁寧に行ってください。 4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避けてください。
ネギ	ネギコガ	—	平年並	小	普通	成虫密度 				<ol style="list-style-type: none"> 1) 春から秋にかけて4~5回発生します。 2) 幼虫は葉の内部に潜り、表皮を残して食害します。潜入防止のため、発生初期から防除を行うことが重要です。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または低い予想(±) 2) ブラストム(6月19日現在)によると、感染好適条件は6月14～15日、17～18日に、南部地域を中心に出現(+) 3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、本田における発生圃場率0%(平年0%)と平年並に少ない傾向(±) 4) 一般圃場では、発生量は無～少であり、一部地域のもち品種で確認(±) <p>考察: ブラストムによる判定結果および今後の気象条件を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	穂いもち	やや早	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 農業研究所作況試験田(4月25日移植コシヒカリ、移植50日目)によると、葉齢の進展は平年並(発生時期±) 2) 水稻生育予測システム(津アメダスデータ、4月25日移植コシヒカリ、6月17日現在)によると、予想出穂期は7月17日頃(平年7月20日頃)と2.9日早い予想(発生時期-) 3) 一般圃場では、葉齢の進展はやや早い傾向(発生時期-) 4) 葉いもち発生量は平年並の予想(±) <p>考察: 水稻の生育状況を考慮して、予想発生時期はやや早、葉いもちの予想発生量を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	紋枯病	やや早	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 農業研究所作況試験田(4月25日移植コシヒカリ、移植50日目)によると、葉齢の進展は平年並、茎数はやや少の傾向(発生時期±、発生量-) 2) 昨年8月の巡回調査圃場では、発生圃場率21.6%(平年29.9%)とやや少、発病度0.9(平年2.1)と少(-) 3) 一般圃場では、葉齢の進展はやや早、茎数はやや多(発生時期-、発生量+) <p>考察: 水稻の生育状況から予想発生時期はやや早、感染源となる越冬菌核量はやや少と考えられ、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	白葉枯病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または低い予想(±) 2) 県内では4月以降、激しい風を伴う大雨はなし(-) <p>考察: これまでのところ、激しい風雨による冠水の機会は少ないため、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	斑点米カメムシ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(4月第1半旬～6月第3半旬)では、誘殺数はアカスジカスミカメ6頭(平年11.4頭)と少、アカヒゲホソミドリカスミカメ4頭(平年35.0頭)と少 (—)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、畦畔イネ科雑草すくい取りによる発生地点率および成幼虫数は、ホソハリカメムシで8.8%(平年9.3%)と平年並に少、0.2頭(平年0.2頭)と平年並に少、クモヘリカメムシで0%(平年0.2%)と平年並に少、0頭(平年0.01頭)と平年並に少、シラホシカメムシ類で8.8%(平年6.1%)とやや多、0.1頭(平年0.1頭)と平年並に少、アカスジカスミカメで37.5%(平年32.7%)と平年並、2.1頭(平年1.9頭)と平年並 (+)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査結果から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	イネクロカメムシ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(4月第1半旬～6月第3半旬)では、誘殺数は水田位置12頭(平年7.0頭)と多、畑位置120頭(平年165.3頭)とやや少 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発生圃場率7.2%(平年4.4%)と多、25株当り成虫数0頭(平年0.02頭)と少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～やや少(概して平年並に少) (±)</p> <p>考察: 巡回調査結果、一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(4月第1半旬～6月第3半旬)では、誘殺数は松阪市・水田位置2頭(平年0.4頭)、伊賀市0頭(平年0頭)、紀北町0頭(平年0頭)、御浜町0頭(平年0頭)とそれぞれ平年並に少ない傾向、松阪市・畑位置255頭(8年平均107.6頭)と多い傾向 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、払い落とし成幼虫数0.3頭(平年0.3頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無(概して平年並に少) (±)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査結果、一般圃場の発生状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	セジロウンカ	平年並	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(県内4か所)では、6月10日現在、未飛来(松阪市・平年初飛来7月9日) (発生時期±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、払い落とし成幼虫数は0頭(平年0.006頭)と平年並に少ない傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無 (±)</p> <p>4) ウンカ飛来状況(JPP-NET)によると、九州では6月中旬まで多飛来は無 (—)</p> <p>考察: これまでの飛来状況から発生時期は平年並、現在の飛来状況から当面は密度が大きく上昇することはないと予想されるため、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	そうか病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または高い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃(6月中旬、無防除)では、春葉発病率94.0%(平年60.0%)と多、発病果率99.2%(平年59.1%)と多(+) </p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、春葉発病度0(平年0.1)と平年並(±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察：巡回調査結果、一般圃場の発生状況を重視して、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	黒点病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または高い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃(6月中旬、無防除)では、果実発病率93.3%(平年37.7%)と多(+) </p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、春葉発病度0.1(平年1.3)と少(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>5) 感染源となる枯枝量は平年並(±)</p> <p>考察：一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または高い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃(中晩柑)における果実での初発は、6月16日現在未確認(平年6月7日)と遅(-)</p> <p>3) 県予察圃(6月中旬、新甘夏、無防除)では、春葉発病率0%(平年3.3%)と少、発病果率0%(平年1.0%)と少(-)</p> <p>4) 巡回調査圃場(6月第2週)では、春葉発病率は温州みかんでは0%(平年0.3%)と平年並、中晩柑では0.3%(平年3.6%)と少(-)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量はやや少～平年並(概してやや少)(-)</p> <p>考察：温州みかんでは、現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類では、現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(6月中旬)では、100葉当り寄生頭数は無防除区4.4頭(平年30.3頭)と少、慣行防除区2.2頭(平年6.7頭)とやや少(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発生圃場率61.5%(平年52.3%)と多、春葉寄生率11.2%(平年11.4%)と平年並、寄生頭数0.42頭/葉(平年0.66頭/葉)とやや少(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少～平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察：巡回調査結果および一般圃場の発生状況を重視して、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃黄色粘着トラップ(6月中旬、無防除)では、誘殺数 1.8 頭/日(平年 1.46 頭/日)とやや多 (+)</p> <p>2) 県予察圃(6月中旬、無防除)では、100 果当り寄生虫数 0 頭(平年 0.42 頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、被害果率 0.6%(平年 0.5%)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 巡回調査結果および一般圃場の発生状況を重視して、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ナシ	黒星病	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または高い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病葉率 2.7%(平年 2.0%)とやや多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	ハダニ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(6月第2週)では、寄生葉率 0%(平年 1.0%、ただし 8 か年は 0%)と平年並、寄生頭数 0 頭/葉(平年 0.05 頭/葉、ただし 8 か年は 0%)と平年並 (±)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ブドウ	べと病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または高い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病葉率 0%(平年 0.1%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察: 一般圃場の状況を重視して現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の気象要因を考慮して予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹 共通	カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:6月11日～20日)では、誘殺数はツヤアオカメムシは39頭(平年97.7頭)と少、チャバネアオカメムシは3,551頭(平年790.6頭)と多 (+)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市:5月21日～6月20日)では、誘殺数はツヤアオカメムシ142頭(平年306.3頭)とやや少、チャバネアオカメムシ1,306頭(平年1,395.2頭)と平年並 (±)</p> <p>3) フェロモントラップ(5月17日～6月16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で741頭(平年208.2頭)と多、中間地(津市白山町二本木)で1,446頭(平年559頭)と多、平地地(松阪市嬉野川北町)で580頭(平年96.7頭)と多 (+)</p> <p>4) 巡回調査圃場(6月第2週、カンキツ圃場)では、叩き落としまたは見取り調査による飛来は0.15頭(平年0.06)と多 (+)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	炭疽病	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または低い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(一番茶期)では、発病葉数0枚/m²(平年0枚/m²)と平年並 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発生圃場率35.0%(平年6.3%)と多、新葉発病葉数1.2枚/m²(平年0.2枚/m²)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または低い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(6月中旬)では、寄生葉率0%(平年1.9%)と少、寄生頭数0頭/葉(平年0.03頭/葉)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発生圃場率50.0%(平年31.6%)と多、寄生葉率4.6%(平年5.1%)と平年並、寄生頭数0.11頭/葉(平年0.18頭/葉)とやや少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノホソガ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または低い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(5月第5半旬～6月第4半旬)では、誘殺数880頭(平年3,689.4頭)と少(－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、巻葉数0.1枚/m²(平年0.3枚/m²)と少(－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または低い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃吸引粘着トラップ(5月第5半旬～6月第4半旬)では、捕殺数4頭(平年8.6頭)と少(－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、叩き落とし虫数0.9頭(平年1.5頭)と少(－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または低い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃吸引粘着トラップ(5月第5半旬～6月第4半旬)では、捕殺数2,419頭(平年2,660.7頭)とやや少(－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、叩き落とし虫数1.5頭(平年11.5頭)と少(－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや多(+)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	早	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または低い予想(±)</p> <p>2) 有効積算温度による予測式では、第2世代幼虫孵化最盛日は7月15日頃(平年7月21日頃)(発生時期－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、雄繭寄生株率8.3%(平年9.0%)と平年並、雄繭発生度3.1(平年2.6)と平年並(±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察：発生時期；早、現状の発生量は平年並と考えられ、今後の増加を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャノコカクモンハマキ	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または低い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(5月第5半旬～6月第4半旬)では、誘殺数67頭(平年138.7頭)と少(－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、ハマキムシ類巻葉数0.4枚/m²(平年0.4枚/m²)と平年並(±)</p> <p>4) 一般圃場では、ハマキムシ類の発生量はやや多(+)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	うどんこ病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病株率8.4%(平年10.0%)とやや少 (－)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～平年並(概してやや少) (－)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病株率0%(平年0%)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、寄生株率4.5%(平年8.3%)と少 (－)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察：一般圃場での発生状況を重視して、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月18日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(5月第5半旬～6月第4半旬)では、誘殺数は9頭(平年203.7頭)と少 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、被害葉率0%(平年0.3%)と平年並に少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

		平年値 ↓					
度数		10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価		少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除が必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス「イネ紋枯病について」

◆イネ紋枯病を引き起こす病原菌◆

カビの仲間である糸状菌(担子菌類)(学名: *Thanatephorus cucumeris* (Frank) Donk)が引き起こす病害です。イネ以外では、トウモロコシ、ダイズ、トマト、ナス、イネ科雑草やカヤツリグサ科雑草等に感染し、土中に数年間残ることがあります。

病徴と被害



図．発病状況

水際に近い部位で発生し、進行すると図のように枯れ上がります。その際、直径2mm程度の小さな菌の固まり(菌核)を作ります。この菌核が翌年の感染源になります。

空気伝染はしないので、劇的にまん延することはありません。

病原菌の生態と感染経路

形成された菌核が、圃場内に落ちて越冬し、感染準備を整えます。

代かきによって菌核が水面に浮上し、田植えが始まると茎に付着することで感染します。

気温 22℃以上、株間湿度 96%以上で発病します。

生育適温と発生しやすい条件

この菌の生育好適条件は、28～32℃の高温と多湿です。

以下に発生しやすい条件をまとめました。

- 1) 早生、短稈、分げつが多い品種
- 2) 早期、早植え、密植、窒素施用過多、倒伏
- 3) 梅雨期の高温、高温条件の長期化、生育適温は 28～32℃
- 4) 前年の発生が多い時(菌核が多く存在)

防除対策

耕種的防除法

- 1) 畦畔雑草を除去しましょう。
- 2) 密植を避けましょう。
- 3) 窒素施用過多を避けましょう。
- 4) 倒伏させないような肥培管理を徹底しましょう。

化学的防除法

- 1) 水際の茎に初期発生を確認したら、早めに薬剤散布をしましょう。

東海地方 1 か月予報 (平成 27 年 6 月 18 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 ヶ月間の平均気温は平年並または低く、降水量は平年並または少ない見込みです。期間の前半は気温がかなり低くなる可能性があります。

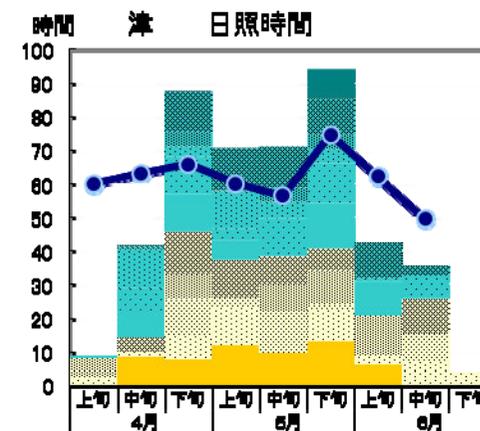
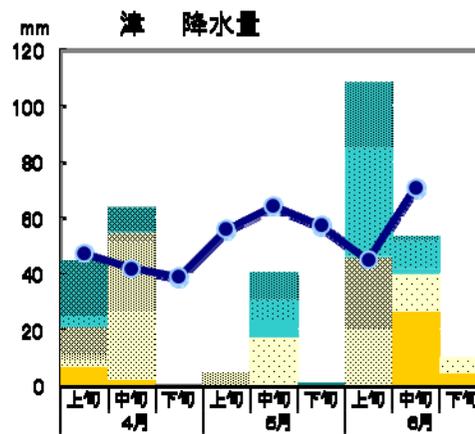
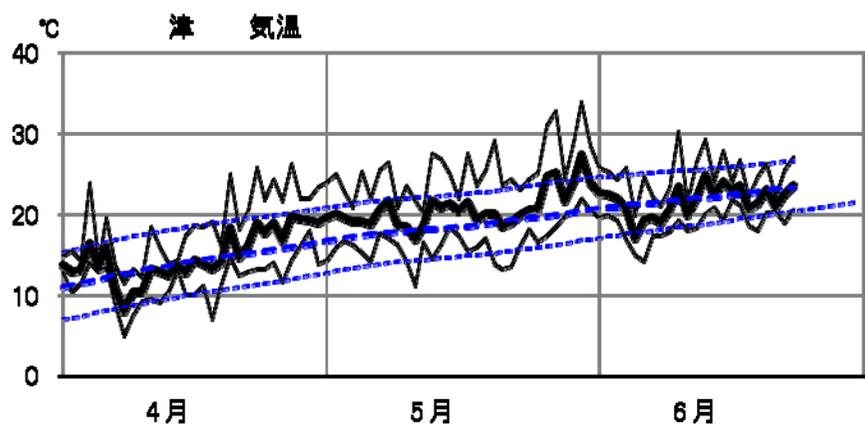
1 週目 6 月 20 日～ 26 日	梅雨前線や上空の寒気の影響で、曇りや雨の日が多いでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 3.2 日・2.5 日
2 週目 6 月 27 日～ 7 月 3 日	梅雨前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。	同 3.0 日・2.6 日
3～4 週目 7 月 4 日～ 17 日	梅雨前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。	同 5.5 日・6.0 日

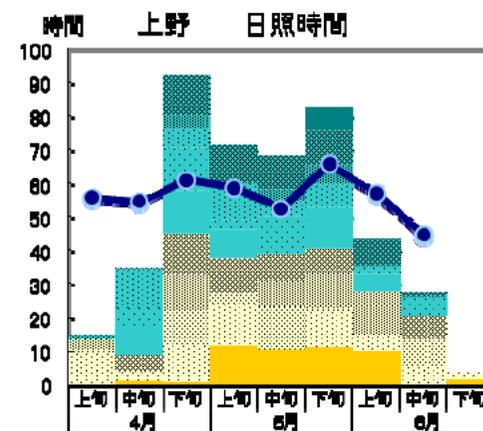
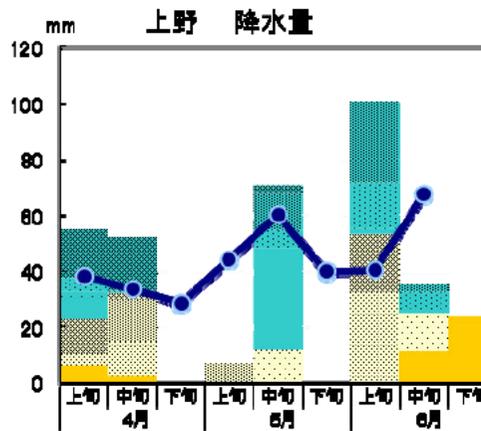
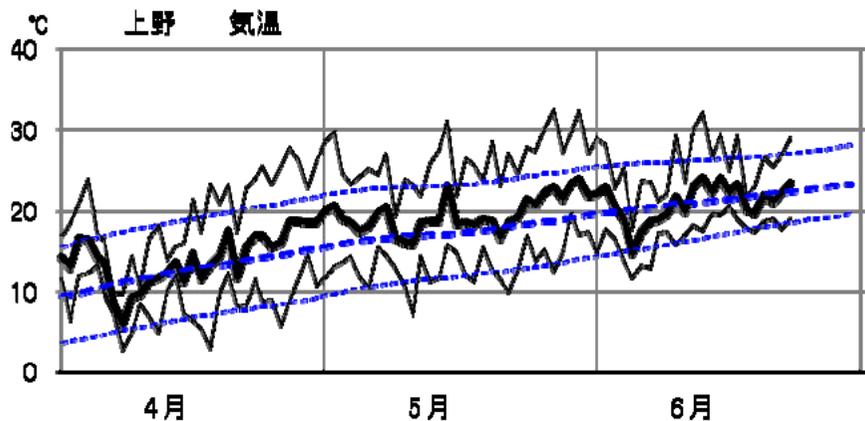
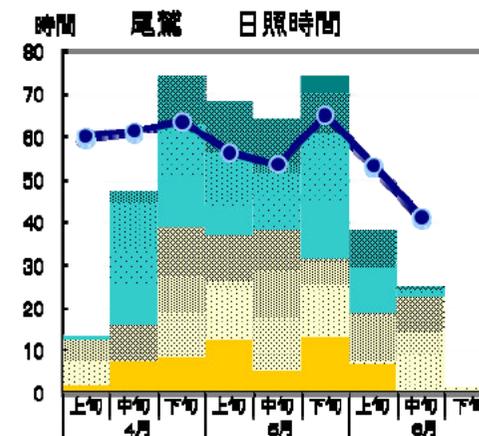
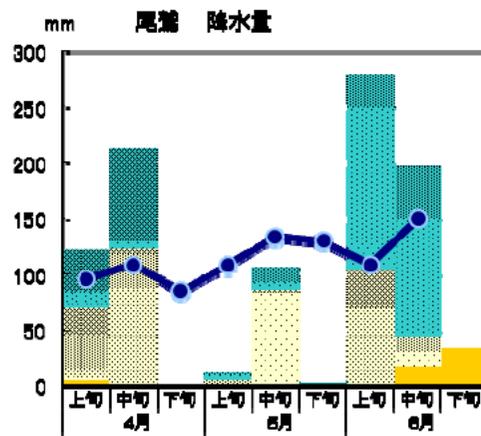
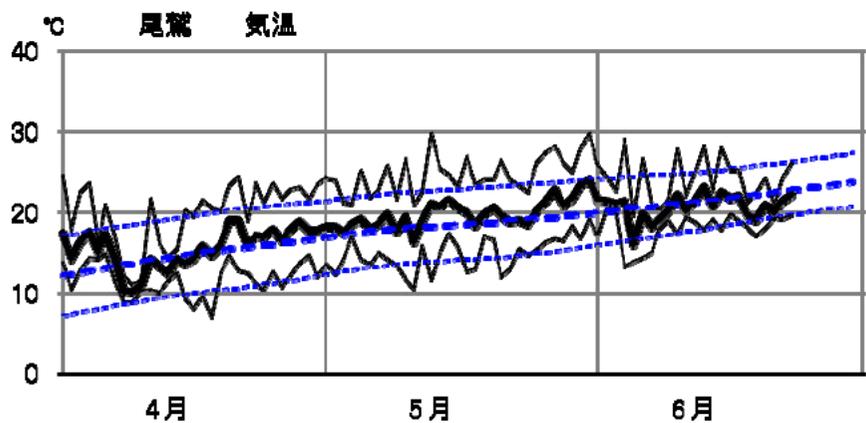
東海地方週間天気予報 (平成 27 年 6 月 24 日 10 時 30 分 名古屋地方気象台発表)

予報期間 6 月 25 日～7 月 1 日

向こう 1 週間は、梅雨前線や上空の寒気の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。最高気温と最低気温はともに、平年並か平年より低い見込みです。降水量は、平年より多いでしょう。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (6 月 23 日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- 平年平均
- 平年最高
- 平年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- 第1回 4月23日(木)(済み) 第2回 5月28日(木)(済み)
第3回 6月25日(木)(今回) 第4回 7月23日(木)
第5回 8月27日(木) 第6回 10月22日(木)
第7回 3月24日(木)

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h26yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/work/ipm/main.htm>